

P-5

## 北海道の介護老人福祉施設入所者における口腔インプラントの現況

○山中 大寛, 山口 摂崇, 武田 佳大, 野坂 明寛, 越智 守生

北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系クラウンブリッジ・インプラント補綴学分野

The situation of oral implant-treated residents in long-term nursing homes in Hokkaido

○YAMANAKA M, YAMAGUCHI K, TAKEDA Y, NOSAKA A, OCHI M

Division of Fixed Prosthodontics and Oral Implantology, Department of Oral Rehabilitation, School of Dentistry, Health Sciences University of Hokkaido

**I 目的:** 介護老人福祉施設に新規入所となる者の咀嚼・嚥下機能は比較的残存・保持されているが、入所期間の経過とともに次第に機能低下が認められ、やがて嚥下障害を生ずる者が増加する。補綴装置の悪化も咀嚼・嚥下機能に影響を与える要因であるが、当該入所者に対して歯科補綴装置の状態における咀嚼・嚥下機能への影響を一律に評価できていない。そこで、我々は施設入所者のうち、口腔インプラント治療歴のある対象者の口腔内状況、咀嚼・嚥下機能、誤嚥性肺炎既往歴や栄養状態等を明らかにするために調査した。

**II 対象および方法:** 北海道内に所在する介護老人福祉施設のうち、ネットワークサンプリング法を用いて9施設を選定し調査を行った。対象者の除外基準は重度の認知症とし、調査項目は基本情報として年齢、性別、既往歴、要介護度、服薬数をカルテ情報から抽出した。また、口腔内情報としてOral Assessment Guide (OAG)、歯数、オーラルディアドコキネシスを2名の歯科医師が調査した(対象期間:平成30年7月~令和2年2月)。

**III 結果:** 上記施設の対象者824名のうち、本調査には267名(男性49名、女

性218名、平均年齢87.0歳)の入所者が参加した。参加者率は32.4%であった。267名のうち口腔内に口腔インプラント治療を施されていたのは1名(0.3%)であった。口腔インプラント埋入部位は47相当部で対合歯は欠損であった。当該対象者は90歳女性で中等度認知症を有しており、食形態は嚥下訓練食、要介護度は5、服薬数は0、残存歯は14歯、OAGスコアは11、オーラルディアドコキネシス(パ音、タ音、カ音)は採取できなかった。なお、隔週で専門的口腔ケアが行われていた。

**IV 考察および結論:** 本調査においてインプラントが口腔内に存在したのは1名だけであったため、統計学的な比較検討ができなかった。今回の調査対象者の平均年齢が87歳と高かったこともあり、口腔インプラント治療を受けた対象者が少なかったと推察される。要介護度が5であったが、専門的口腔ケアが入っていたことからOAGスコアは比較的良好であったと考えられる。今後サンプル数を増やして、全身状況や歯科的介入の有無等を精査しながら補綴装置の状況と咀嚼・嚥下機能との関連を調査していく予定である。(倫理審査委員会番号11000779承認 承認番号第178号)

P-6

## (公社)日本口腔インプラント学会専門医の東北・北海道支部におけるウェブサイト広告の実態—2年経過比較—

○武田 佳大<sup>1)</sup>, 山中 大寛<sup>1)</sup>, 久原 啓資<sup>2)</sup>, 横関 健治<sup>3)</sup>, 石川 昌洋<sup>2)</sup>, 越智 守生<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系クラウンブリッジ・インプラント補綴学分野

<sup>2)</sup>北海道医療大学歯学部生体機能・病態学系顎顔面口腔外科学分野

<sup>3)</sup>北海道医療大学歯学部生体機能・病態学系組織再建口腔外科学分野

The actual situation of website on “dental implant-specialists” by the Japanese Society of Oral Implantology in Tohoku-Hokkaido branch — Comparison for 2 years —

○TAKEDA Y<sup>1)</sup>, YAMANAKA Y<sup>1)</sup>, KUHARA K<sup>2)</sup>, YOKOZEKI K<sup>3)</sup>, ISHIKAWA M<sup>2)</sup>, OCHI M<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>Division of Fixed Prosthodontics and Oral Implantology, Department of Oral Rehabilitation, School of Dentistry, Health Sciences University of Hokkaido

<sup>2)</sup>Division of Oral and Maxillofacial Surgery, Department of Human Biology and Pathophysiology, School of Dentistry, Health Sciences University of Hokkaido

<sup>3)</sup>Division of Reconstructive Surgery for Oral and Maxillofacial Region, Department of Human Biology and Pathophysiology, School of Dentistry, Health Science University of Hokkaido

**I 目的:** 近年、患者は歯科医院をウェブサイトで検索し、専門医による歯科インプラント治療を希望していることが多い。しかし、現在のところ(公社)日本口腔インプラント学会(以下、インプラント学会)認定口腔インプラント専門医(以下、インプラント専門医)は広告可能な専門医として認められていない。我々は、インプラント専門医の広告表記の実態についてこれまで報告を行ってきたが、その2年経過の変化について調査を行い、比較検討を行ったので、報告を行う。

**II 材料および方法:** 東北・北海道地区に所在するインプラント専門医が管理・運営を行っていると思われるウェブサイト上に「インプラント専門医」の表現が記載されているか、検索エンジンGoogle®を用いて調査を行った。検索対象はインプラント学会ウェブサイト上に記載のある東北・北海道地区の専門医とし、検索式は先行研究に従い、期間は2021年7月13日から2021年7月20日とした。調査者は1名(歯科医師、臨床経験年数3年)で行った。包含基準はインプラント学会ウェブサイト上に記載のある医療機関のウェブサイト、除外基準は、キュレーションサイトやウェブログ、インプラント専門医自身が管理運営に関与していないと思われるもの、医療機関以

外の大学の研究室のものとした。この「インプラント専門医」の記載より、広告表記率を算出し(専門医を広告しているウェブサイト数から各道県の専門医数を除いたもの)、先行研究との比較検討を行った。なお、統計処理は、統計ソフトIBM SPSS Statistics®(Ver.26 IBM Corporation, Somers, NY)を使用した。

**III 結果:** 検索の結果、114件のウェブサイトを認めた。2019年時より2年間でインプラント専門医数は3道県で増加、4県で変化なしであったが、広告表記率は7道県中4道県で増加、2県で変化なしで、1県のみ減少していた。Wilcoxonの順位和検定の結果、広告表記数(全数)( $p=0.039$ )および広告表記率( $p=0.046$ )において有意に増加を認めた。

**IV 考察および結論:** 本調査より先行研究からの2年間で広告表記数および広告表記率の増加を認めた。先行研究と本研究が行われるまでの期間で、適切な広告表記について周知に至らなかったと示唆された。研究上の限界はあるものの、広告表記率の改善は現在のところ達成されていないことが示唆された。